



多重極限物質科学研究センター 研究発表会

第7回

極限条件下の研究から広がる物質科学

物性研究を基軸とする教育・研究を行い、社会に貢献することが物質理学研究科の目的です。これを達成するために、本研究センターは“一桁上の多重極限条件”を掲げています。一桁上の極限条件下実験手法を確立し、新奇物性現象の発現と解明を目指す卓越した研究・教育の場を実現し、高いレベルの物理学の教育と研究を実践することを目指しています。今回の研究発表会では、学外から時間分解軟X線光電子分光分野で活躍されている若手研究者をお招きし、最新の研究成果を発表していただきます。さらに、センター所属の博士前期課程2年生が修士論文の進捗状況を報告し、センター全教員による分野を超えた研究指導を行います。

会場 理学部 研究棟 739号室

日時 2018年12月25日(火) 10:00~16:20

プログラム

10:00	開会の辞 小林寿夫 多重極限物質科学研究センター長
10:05	X線光学分野 水落博之 多波回折明視野X線トポグラフィによるNaフラックス法GaN基板中転 鎌本春花 多派回折明視野X線トポグラフィによるSiC単結晶基板中転位の同定 福田敬三 縮小結像照明を用いたX線タイコグラフィの開発
11:05	電子物性学分野 小谷朋也 UGe ₂ の強磁性磁区状態と超伝導臨界電流
11:25	休憩 11:25~11:35
11:35	招待講演 鈴木基寛 JASRI/SPring-8 X線磁気円二色性による先端的磁性解析
12:15	写真撮影・昼休憩 12:15~13:15
13:15	機能性物質I分野 荻野晃成 蓄積電荷測定法における電極金属の影響 坪田秀平 IV族半導体ナノコロイドの作製とその塗布膜の電気的評価 中谷比沙希 蓄積電荷測定法における有機半導体膜厚の影響 宮本裕太 蓄積電荷測定法における絶縁性酸化膜の影響
14:35	休憩 14:35~14:45
14:45	極限状態物性学分野 大川直樹 超高压X線回折によるSeとTeの構造相転移の研究 紙上昂太 第四周期元素:Zn, Ge, Asの超高压X線回折による原子体積の研究
15:25	休憩 15:25~15:35
15:35	光物性学分野 田中健太 高繰り返し光パルス励起状態の半導体における硬X線光電子スペクトルのピコ秒時間特性 吉角龍一 半導体ナノ粒子薄膜における光・電気的特性の分光学的研究
16:15	閉会の辞 住山昭彦 物質理学研究科長



多重極限物質科学研究センター
Center for Novel Material Science under Multi-Extreme Conditions
<http://www.sci.u-hyogo.ac.jp/material/Centers/MEX/index.html>